

③ インプレー中の怪我等

インプレー中、例えばケガで選手が倒れてもプレーは続行か？

⇒その時の状況により判断して下さい。例えば選手が流血している場合など、明らかにプレーを止めなければならない場合は速やかに試合を止め、選手の救助にあたって下さい。ボールデッド前であればノーカウントにして下さい。軽微なケガで、相手選手のプレーの妨げにならない場所に倒れている場合等は、主審の判断でプレーを続行して問題ありません。

④ インターフェアのポイント

インプレー中にインターフェアがあった場合、反則がなかったチームにポイント又はサイドアウトとなると認識しているが、ポイント又はサイドアウト後の抗議等でインターフェアとなった場合、さらにポイントを追加又はサイドアウトとするのか？

⇒ポイント又はサイドアウトとなった時点で1点、その後の抗議等がインターフェアと認められる場合は、次のサービス開始の吹笛前であっても、更に1点とします。前のプレーと区分けして考えて下さい。なお抗議等が継続的に複数回行われる場合は、都度インターフェアを宣告し、都度1点となりますが、円滑な試合運営を考えますと、インターフェアの判定後に両チームの監督を呼び、抗議等が継続する場合は主審の判断で没収試合になる旨説明し、注意を促す等行って下さい。

⑤ インプレー中、選手が審判又は審判台に触れたインターフェアについて

令和4年度実技講習会報告書（統一事項）としてインターフェアーハンドシグナル：当該選手を手のひらで指し、触れた箇所を指差しすると理解しているが、その際に反則のあったチームに対してインターフェアの説明は必要か？

⇒令和4年度の統一事項で示されている事、また目で見て判断できる反則のため、ハンドシグナルのみで問題ありません。追加の説明は不要です。但し最近決まった事項ですので、選手が状況を理解できない場合は、主審の判断で補足説明を行って下さい。なおボールデッド後に触れた場合は、その前のプレーを有効としてください（故意ではない前提）。

⑥ ワンプレー中に複数回反則と思われるプレーがあった際の、ボールデッド後の対応について

⇒両チームから質問が無い場合は、プレーを遡って反則を取る事は望ましいと思えませんので、ボールデッド時のプレーで判定して下さい。反則と思われるプレーについての質問があつて受けた場合は、審判団で協議の上、判定して下さい。判定後の追加質問は、前の質問とは別のプレーに関する内容であっても、受ける必要はありません。

⑦ ネット付近のボール

ボールが両アンテナの想像延長線の外側を通過させないため、前以って相手コート側へ進出することは出来るか。

⇒相手チーム選手のプレーの妨げとならなければ、問題ありません。

- ⑧ ユニフォームの半袖、長袖は統一、半袖の場合でアンダーシャツを着る場合は全員着るか、着ないか。また、アンダーはメーカーロゴなどワンポイントまでで奇抜な物はダメだと数年前の審判部会で確認していたと認識しております。しかし、ジャパンカップ岩手大会において、半袖、長袖の混在があり、当新潟県所属チームが審判員に確認したところ、『問題ない』と回答されたそうです。今一度、再確認のため質問いたします。

⇒以下の解釈をベースに判断して下さい。なお考え方は平成 28 年、及び令和元年の統一事項の内容をベースとしておりますので、必要に応じて確認下さい。

- ・ 作成時期の違い等によるメーカーロゴ等のワンポイントの違いは許容する
- ・ インナーの V ネック、丸首、ハイネック等の違いは許容する
- ・ インナーの色違いはダメ
- ・ インナーを着用している選手と着用していない選手がいても、許容する
- ・ ユニフォームの半袖、長袖が混在していても許容

- ⑨ ジャパンカップでの帯同審判制はいつになったら実現しますか？

⇒審判部としては、A 級専任審判での実施を理想とします。ジャパンカップは最高峰の試合であり、審判員信条に記載の「公平・正確な審判」を行うためには、同カテゴリ内のライバルチームの主審を帯同で行わせる事は、考えておりません。但し、予算や人員等の事情により、どこまで妥協するかは協議が必要です。

- ⑩ ボールがネットに触れた場合のプレー回数

審判の手引 P. 15 より

③ オーバータイムス

1 チームが、ボールを相手コートに返す前に、4 回以上プレーしたとき。
ただし試合中にボールがネットに触れた場合は、5 回以上プレーしたとき。

④ ドリブル

一度ボールに触れた選手が、再び続いてそのボールに触れた場合はドリブルとなる。ただし、一度触れたボールがネットに触れた場合は、再び続いて一度だけボールに触れることができる。

【正しい解釈】

前提規定：③ ボールがネットに触れた場合は、4 回までプレーできる。

④ ただし書きは一人まで、とは規定していない。

※③と④を一緒に理解し解釈することが重要

【具体例】

問合せの多い事案（※ABC は同チーム）

★最初に A のレシーブで、ボールがネットに触れ、そのボールを再び A が B に。この後の事案に対する判定

事案 1 : B が打ったボールがネットに触れそのボールを相手コートに直接返球した。

➡正判定:③により、A(1)(2)、B(3)(4)で返球したのでオーバータイムではない

※ネットに触れた行為が2選手による2度の行為をしてはならないという誤った解釈が最も多かった。

事案 2 : B が打ったボールがネットに触れそのボールを C に。C はそれを相手コートに返球した。

➡正判定:③により、A(1)(2)、B(3)(4)、C(5)で5回プレーしたとしてオーバータイムとなる。

※④だけを解釈し、一度触れたボールを再び触れるのを「1回」のプレー回数と誤解釈している方がいる。

事案 3 : B が打ったボールがネットに触れそのボールを再び A に。A はそのボールを相手コートに直接返球した。

➡正判定:事案 1 と同じ。オーバータイムではない。④の連続行為ではない。

⇒全て、記載の通りの判断で問題ありません。

⑪ ネット下通過に関する判定

審判の手引 P. 17 より

⑧ インターフェア

② ネット下を完全に通過しないボールに、相手側選手が故意に触れたとき。

[具体例] 問合せのあった事案 (※ABC は同チーム)

★A コート側で、触れたボール(おそらくブロックかサーブ)が、ネット上から B コート側へ行き、B コートの誰にも触れずにボール(の軌道)が変化し、ネット下から A コート側に通過途中で、A コート側の選手に触れた。

事案 1 : A コート側の選手が故意でなく触れた

⇒ボールがコート外の床面、物体に触れたと見做され「アウトオブバウンズ」となります。

ブロックボール

・ 同選手が触れた時点でドリブル。

(ブロック時にネットに当たってからならドリブルとはならない)

・ 違う選手ならインプレー継続。

サーブボール

・ 同選手の有無にかかわらずサーブ失敗。

(同選手:ドリブルシグナル、違う選手:手を選手に向ける)

⇒同選手が触れた場合でも、ネット上を超えて相手コートに入ったボールがネット下を通過して同選手に触れているため、ドリブルではなくボールがコート外の床面、物体に触れたと見做され「アウトオブバウンズ」となります。

事案 2 : A コート側の選手が故意に触れた

ブロックボール

- ・同選手の有無にかかわらずインターフェア

サーブボール

- ・同選手の有無にかかわらずインターフェア

⇒故意なのでインターフェアの反則となります。

- ⑫ 3 本目で相手コートにボールが返らず、ネットに触れず 4 本目に 3 本目と同じ選手がボールに触れた場合の反則は「ドリブル」と「オーバertime」のどちらが正しいのか。

⇒以前はドリブルを優先しておりましたが、今後は上記のように複数の反則が同時に発生した場合は、どちらの反則を取っても問題ない事としたい。

- ⑬ ネットが緩い場合の対応について、長野のジャパンカップの時に張り直そうとしたら「その日は張り直さないで下さい」と言われた記憶がありますが、正しいでしょうか。

⇒終日張り直さない必要性はありません。審判団は試合前にネットの張り具合以外にも、審判台の位置やライン、ベンチなど、コートが正しい状態にあるか確認する必要がありますので、その一環で問題ないものとお考え下さい。

- ⑭ 線審がジャッジをしようとした際に選手が目の前に居たため、ボールの落ちた位置が確認できない場合の線審の対応について。

⇒線審が見えない場合でも、推定でインかアウトの判定をして下さい。但し線審が有資格者ではない、または経験が浅い等で判定できない場合は、審判団で協議の上インかアウトを決めて下さい。ノーカウントにはしないで下さい。

以 上